

日本の宗教倫理と経済倫理の関

先行研究としての大野信三（1900-1997）^評と稲葉襄（1914-2008）^評の業績

相即相入の相依関係論（仏教）と対立的相依関係論（西洋）

主伴同置関係と主伴固定関係

全体調和か予定調和か

人々の相互依存関係が、神の見えざる手か

自利利他円満具足か、利己的追求か

相互扶助の原理化と競争原理化

慈悲倫理と予定説

修行としての経済行為と、救済の証としての経済行為

経済社会学会用

宗教と経済の結節点としての倫理

・・・イスラームを例に経済活動とその宗教倫理観の関係性を考える・・・

I・現在社会における経済と宗教の倫理

1・イスラームの台頭は、宗教と経済の関係を変革するか？

経済的合理性と宗教倫理の衝突

味の素事件 2001年1月4日の「インドネシア・味の素事件」（参考資料1）を参照。

問題意識の齟齬の背景にあるものは？

宗教的戒律の位置づけの差

日本など近代文明圏における経済と宗教の構造差

（世俗主義とタウヒード）

2・ムハンマドの風刺画騒動と不買運動

ヨーロッパ産乳製品の不買運動と暴動の沈静化（資料2）

2・経済倫理を支える「世俗主義」と「タウヒード」の思想

世俗主義 *キリスト教の戒律規定の不在が、世俗化を可能にした

近代文明理解には、世俗化（脱宗教、脱教会支配）の思想が重要

中世的なキリスト教倫理の破棄あるいは改変

個人と神の直接的対話構造と倫理観の構築

宗教（教会）倫理と世俗倫理の優劣。（steward ship）という発想

（内面化しているが近代文明・経済倫理は、キリスト教的倫理が生きている）

タウヒード*イスラームでは、宗教から離れた価値観は、存在しない。

政教一元主義による人間活動の統合

役割としての政教分離と究極的な一元化（宗教空間と日常空間）

義務としての経済活動（勤勉、克己、略奪・・・）

（イスラーム法に抵触しない限りの経済活動）

3・イスラームにおける経済行為を支える倫理

商業を理想とする職業意識（生産軽視・流通重視）

（スンナによる規定）

直接性の重視・・・中間媒体・介入者の否定

（宗教構造に起因するシャリーアによる規定）

二種類の利潤の設定

リバー（利子など不労所得）とムグラバ（直接的所得）

گران銀行や無利子銀行という存在

*タウヒードの経済思想・・・世俗化は難しい。

通商・金融事業に特化した経済倫理

社大
保及俊司

1月4日	味の素のインドネシア現地法人、味の素インドネシア（ジャカルタ）が生産する「味の素」の製造過程で、イスラム教徒が口にできない豚を原料とする酵素を基にした添加物を使っていたことが分かり、インドネシア保健省が4日、「味の素」製品を3週間以内に回収するように命令。
1月6日	インドネシア警察当局が、日本人1人を含む味の素インドネシアの役員・部長6人を、消費者保護法（表示規定違反）の疑いで逮捕したと発表（実際は身柄拘束）。
1月8日	インドネシア警察当局が、同社の荒川満夫社長と小田康副社長を消費者保護法違反の疑いで逮捕（拘束）。この事件での拘束者は日本人3人を含む8人となる。
1月9日	ワヒド大統領が、「味の素製品は（イスラム教徒が口にできる）ハラールだ」と語り、ハラールではないと認定したイスラム指導者会議とは異なる見解を示した。 警察当局は小田康副社長を釈放。
1月10日	インドネシア警察当局が、新たに同社の日本人社員3人に参考人として出頭を求め、事情聴取を始めた。また警察幹部は9日夜に釈放した同社副社長について、「赴任して約2カ月しかたっており、事件に直接関与した疑いは少ない」と述べ、容疑者としての扱いを取り消し、参考人に切り替えた。 同国の科学技術応用庁と保健省は10日、記者会見を開き、「豚の酵素は添加物（バクトソイトーン）の製造を促進するために使われているが、添加物にも最終製品にも豚の成分は含まれていない」とする検査結果を発表した。ワヒド大統領が前日、「味の素製品は（イスラム教徒が口にできる）ハラールだ」と述べたことを科学的に裏付けた。

味の素
30日回収
30日17日の
検査と回収

February 05, 2006

ムハンマド風刺画問題に見るコマーシャルイズムの横暴



<風刺漫画>イスラム教預言者を罵つく 中東各地に波紋

デンマーク紙が昨年9月に掲載したイスラム教の預言者ムハンマドを風刺した漫画が、アラブ諸国に波紋を広げている。デンマーク製品の不買運動に加え、大使の召還や大使館閉鎖など外交問題にも波及し始めた。風刺漫画は時限爆弾付きターバンを巻いたムハンマドを描いたもので、預言者をテロリスト扱いしたとも受け取れる。（毎日新聞）